

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

13 January 2010

THE WORLD IN 2010



世界経済

世界の GDP は、2009 年に 2.2% 縮小したが、2010 年は 2.6% 拡大することが見込まれる。このうち、米国が 2.3%、日本が 1.1%、ユーロ圏はわずか 0.9% 拡大するとみられる。しかし、その低迷の度合いに比して復活の力はまだ弱く、2010 年の回復は控えめで弱々しいものに留まるだろう。世界貿易量は回復し続けるだろうが、6% の増加では 2009 年の 11% の下落を相殺するほどにはならない。新興国経済、とりわけ中国、インドおよびブラジルは内需主導の経済回復を遂げていることから、これらの国が 2010 年の世界の成長の大部分を占めるだろう。しかし新興国の間でも、政策調整のための好ましい前提条件である安定した政府、強い対外流動性ポジションおよび低い債務比率を有している国を市場は選好するなど、差別化がされるであろう。いくつかの経済、特に欧州新興国では高いリスクが残り、IMF 主導の国際支援に依存し続けるだろう。原油を含むコモディティ価格は、2009 年初頭に急落した後、回復を遂げてきている。



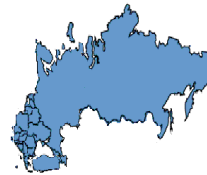
アジア

アジアは、世界危機に直面する前には相対的に健全なポジションを維持していたため財政拡大と金融緩和を実施することが可能であり、それによって経済を早期に回復させることができたが、これは 2010 年にわたっても維持されるだろう。2009 年の 4.7% に続き、2010 年には 6.7% の成長が期待できるだろう。中国の大掛かりな経済刺激策は輸出の伸びの回復を可能とする範囲でしか緩められないと思われるため、経済成長は 8-9% 程度になるだろう。香港、台湾、韓国およびシンガポールも予想よりも早く回復してきている。インドネシア経済は著しく活発であり 4-5% 成長するだろう。フィリピンとベトナムも景気後退を回避することができたが、後者については対外バランスは依然として脆弱である。アセアン地域の成長は 2009 年の 0.5% から 2010 年には 4% 程度まで回復するだろう（2002-2008 年の平均成長率は 5.6%）。力強い回復はインドにおいてもみられ、2009-10 年の成長率は 6-7% で金融引き締めがいまにも行われそうである。パキスタン、ネパールおよびスリランカにおける情勢の安定と治安については依然として不透明であるが、スリランカにおける反政府部隊は鎮静化されたようにみえる。



ラテンアメリカ

2009 年に 2.2% 縮小した後、2010 年の当該地域においては 3% の経済成長が見込まれるだろう。ブラジル—今般の世界的な危機において予想外に耐性をみせた—は 4-5% 成長するとみられる。10 月に選挙を予定しているが、政策の継続性にかかる深刻な問題が起きる可能性は低いだろう。メキシコの初期的な回復の力強さは原油価格と米国に依るだろう。アルゼンチンは市場への復活を目論んでいるが、政策実行にかかる信頼性に問題が残る。ペルーやベネズエラのような、健全な政策を持つコモディティ生産国は力強く回復するはずである。コロンビア経済も耐性を見せたが、5 月に選挙を予定している。ベネズエラやエクアドルのように極左の主導者を持つエネルギー資源生産国はやや苦戦するだろう。ホンジュラスの、新しく選出された大統領は、いずれ、国際的な支援の凍結につながった政治的な問題を解決させるだろう。ほかの中央アメリカおよびカリブ諸国の経済では観光業及び出稼ぎ労働者からの送金を回復させるのに米国の経済回復が必要となるが、依然として多くの国が高い公的債務比率に苦戦するだろう。



中東欧

この地域が世界経済危機のもっとも大きな影響を受けており、経済回復に際しては最も遅れている (laggard)。しかし、多くの国は少なくとも底打ちはしたといえ、地域 GDP の縮小ペースの年平均は 2009 年の第 2 四半期の前年同期比 8% の縮小から第 3 四半期においては同 6% まで緩和してきている。多くの国では 2010 年には控え目に成長するとの見通しだが、IMF 貸付の条件に付随している財政緊縮プログラムがハンガリー、ルーマニア、ラトビアとウクライナの成長を抑制させるだろう。後 3 国の国においては既に IMF の条件を期限通りに満たすのに苦戦しており、貸出は遅延した。IMF 支援の本格的な延期はそれぞれの国におけるカントリーリスクを増大させることになる。トルコとロシアは深刻な景気低迷から回復するが政治的・対外的なショックに対しては依然として脆弱だろう。2010 年における当該地域の成長率は控えめな 1.7% となるだろう（2009 年には 6.4% の縮小となっている）。景気低迷に伴う回復するが政治的・対外的なショックに対しては依然として脆弱だろう。2010 年における当該地域の成長率は控えめな 1.7% となるだろう（2009 年には 6.4% の縮小となっている）。景気低迷に伴う回復するが政治的・対外的なショックに対しては依然として脆弱だろう。2010 年における当該地域の成長率は控えめな 1.7% となるだろう（2009 年には 6.4% の縮小となっている）。景気低迷に伴う回復するが政治的・対外的なショックに対しては依然として脆弱だろう。



中東

4 年間の 5% 超の成長に続き、2009 年における地域 GDP 成長率は 1% 程度まで減速したとみられる。世界景気低迷とそれに伴うエネルギー需要の後退に加え、OPEC の生産クォータおよび土地や他の資産セクターの過大評価への修正もあり、湾岸協力会議の諸国での経済成長はある程度抑制された。サウジアラビア、アラブ首長国連邦およびクウェートは 2009 年には不景気であった可能性が高い。現状のドバイが直面する債務問題によって同連邦（ただし、アラブ首長国連邦全体ではない）が今年回復を遂げることは難しくなるだろう。2010 年の地域の GDP 成長率は 3-4% になるだろう。イランでの、2 基目のウラン濃縮プラントの発覚および核開発問題の交渉にかかる妥協なき状況はさらなる制裁を引き起こす可能性があり、これは経済開発を制限し国内的な緊張感を高める可能性もある。さらに、継続している、イラク、レバノンとパレスチナ自治区における緊張状態は、一向に早期解決の兆しを見せていない。



アフリカ

コモディティの消費と直接投資の戦略を通じて、中国は 2009 年におけるアフリカの経済低迷を最小化することに貢献した。南アフリカにおける明らかな景気後退が当該地域の拡大の足を引っ張り、その成長率は 1% 程度にとどまったと見られる。2010 年における景気回復は広範なセクターにわたると思われ、原油輸出者、非エネルギーコモディティ生産者およびサービスセクター（南アフリカはサッカーのワールドカップの開催地）すべてが貢献することになろう。しかし、4-5% という地域 GDP の成長率は最近の傾向（2005-08 では 7% 超）を下回る。「アフリカの角」地域における治安および情勢不安にかかる懸念が東アフリカのリスクを高め、ナイジェリア（地域最大のエネルギー輸出国）およびギニア（世界第 2 位のボーキサイト生産国）の指導者の健康問題も懸念されている。北アフリカの回復は、とりわけモロッコとチュニジアにおける観光業と出稼ぎ労働者からの送金の面から、EU の主たる市場の強さに依拠するだろう。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.